

越佐路ところどころ



宝の島 佐渡

— 佐 渡 市 —

佐渡市はこんなところ

日本海に浮かぶ佐渡島は、大佐渡と小佐渡の二列の山地が北東から南西方向に伸び、中央に穀倉地帯の国中平野が広がっています。

島の大部分が国定公園や県立自然公園に指定され、豊かで美しい自然環境に恵まれています。

ジオパーク

大昔から続く地殻変動で生まれた佐渡島は、自然風景そのものがまるで展示物のような“大地のテーマパーク＝ジオパーク”であり、島の色々な場所で佐渡のなりたちに関わる地層や海岸地形、そこに育まれた生きものや人の暮らしを見ることができます。

写真の宿根木の隆起波食台は、隆起により海底が持ち上がり、特徴的な海岸ができました。



宿根木の隆起波食台

佐渡金銀山

火山活動によって形成された金銀鉱床により、佐渡の金と銀は徳川幕府の財政を支える大きな力となって栄え、明治以降、東洋一の近代的な鉱山

として発展しました。金銀山の繁栄は遺跡や町並みとして今に伝えられるとともに、能や民俗芸能など多彩な文化となって継承されています。

〈道遊の割戸〉

佐渡金銀山のシンボルでもある大露頭掘り跡で、人の手によって掘られた割れ目は幅30m、深さ74mにも及びます。



道遊の割戸

撮影：西山芳一

〈北沢浮遊選鉱場跡〉

昭和初期の選鉱場の跡で、完成当時「東洋一の施設」と言われました。夜間は美しくライトアップされています。



北沢浮遊選鉱場跡

撮影：西山芳一

〈きらりうむ佐渡〉

佐渡金銀山の多彩な歴史や魅力などをわかりやすく伝えるガイダンス施設です。現地を訪問される方のための情報発信の拠点となることをめざし、2019年4月にオープンしました。



きらりうむ佐渡

世界農業遺産 (GIAHS)

豊かな生態系と生きものを育む水田で続けられてきた佐渡の米づくりは、2011年、国際連合食糧農業機関 (FAO) に認められ、先進国では初めて佐渡と石川県能登地域がGIAHS (ジアス=世界農業遺産) に認定されました。日本で最後まで生き残り、現在再び佐渡の空を舞うトキは、生きものと島民が里山で共生する佐渡の象徴でもあります。

〈トキ〉

トキはGIAHS認定のシンボルです。

2019年9月現在で404羽のトキが自然下で生息し、かつて多くのトキが生息していた佐渡の里山、田んぼでその姿を見ることができるようまでにトキの野生復帰は進んできました。



トキ

〈岩首昇龍棚田〉

海沿いの集落から山間に広がる棚田で、江戸時代頃に開田が進みました。現在も460枚ほどの田んぼで形作られています。



岩首昇龍棚田

宿根木集落

佐渡島南西部に位置する小木地区宿根木集落では、江戸時代後期から明治時代初期にかけての西廻り航路全盛期には、ほぼすべての村民が船主、船乗り、船大工、鍛冶屋、桶屋など廻船業に携った生活を営み、独自の町並みと文化を形成していました。

現在、新潟県では唯一、国の重要伝統的建造物群保存地区として選定され、狭い路地の形状に合わせて三角形に建てられた家「三角家」など、廻船業のむらとして賑わった当時の隆盛がしのべれます。



宿根木集落